

日本語の敬語教育における映像教材の可能性

— 韓国人日本語学習を対象として —

白宗勲 (九州大学大学院博士課程)

1. はじめに

日本語の敬語は複雑で難しいというイメージがある。韓国語は日本語に似ている言語体系を持っているにも関わらず、日本語の敬語は韓国人学習者にとってなかなか習得しにくい学習項目である。このような敬語をより効果的な方法で学習することを考え、その方法として日本語教育によく用いられている映像を利用することに注目した。映像が持つ豊かな情報を敬語教育に導入すれば、現実に近い場面を見せることや間接的な経験ができるなど、経験しなくては理解し難い敬語の学習に役に立つと考えられる。試作として作った映像を利用し、韓国人日本語学習者がどのように考えるかについて考察しながら学習者が利用できる教材の作成を目的とする。

2. インタビューの手続きと方法

2.1 インタビューの対象

調査対象者は、日本語学習歴が3年から7年くらいの韓国人学習者6名を対象とした。この学習者たちはみんな日本で生活した経験がある。日本での生活経験がある学習者たちを選んだ理由として、韓国で日本語の敬語を殆ど使わない点、そして、日本での生活経験がない学習者に映像を見せて理解してもらうことは非常に難しいことが挙げられる。その他、学習歴が低い学習者にとって敬語は難しいと感じることが多いと予想し、敬語の勉強をしたことがある学習者と日本での生活経験がある。その両方満足する学習者を選び、インタビュー調査を行った。

2.2 調査方法

調査方法として、インタビュー方法を用いることにした。目的は敬語に関する質問と敬語をどのように勉強したのか、そして、映像教材について韓国人日本語学習者の意見を聞くことであった。

インタビュー調査は半構造化インタビューを用いることにした。インタビューの主な内容は「日本語の敬語について」、「作った映像に対する意見」に関する項目を中心とした。

インタビューは一人に対して1時間から1時間半程度であり、調査協力者の許可を得て、インタビューの内容を録音した。そして、録音した内容を文字化した。質問項目は表1で示す。

表1 . 半構造化インタビューの質問項目

敬語に関して	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の生活で敬語をよく使いますか？ 2. 使うことがあれば、どのような場面で使いますか？ 3. 敬語を使う時、難しいことや困ったことはありましたか？ 4. 日本語と韓国語の敬語の相違点について知っていますか？ 5. 敬語をどのように勉強したかを思い出してください。
--------	---

映像に関して	1. 本映像は理解しました？ 2. 教材として役に立つと思いますか？ 3. この映像の改善点は何かと思いますか？
--------	--

3. インタビュー資料の分析と結果

3.1 分析

分析は藤（2010）を参考にした。インタビューの内容を文字化して、6名の答えをカード化した。その後、分類作業し、分類を行った結果166の切片が抽出された。それを内容的に似ているものでグループ化した。

被面接者のインタビューの切片を分類した結果、まず、第一段階の分類として「敬語を使う頻度」、「敬語を使う場面」、「敬語は難しい」、「韓国語と日本語の敬語は違う」、「日本語を専攻した」、「敬語の授業が難しかった」、「授業が役に立った」、「例文が多くあればいい」、「実生活に近い教材がほしい」、「形式中心の授業であった」、「映像の短所」、「映像の長所」、「映像の見せる前に説明がある」、「授業であまり時間がなかった」、「役に立つ」、「実生活に使える」、「効果があつて理解しやすい」、「あまり差がわからない」、「内容を理解した」、「初級レベルでは理解できない」、「学習者のニーズによる」という21のグループができた。

そして、第二段階の作業の結果として「敬語を使う頻度」と「敬語を使う場面」と「日本語を専攻した」との間には、発話の内容から日本語の専攻であるため交換留学したことがある。そして、日本に来てから敬語を使うことになり、敬語使う場面を経験することが増えてきたと考えられるため、「留学」というグループに入れた。

そして、「敬語は難しい」と「韓国語と日本語の敬語は違う」は発話の内容から難しいという概念の共有が推測されたため、「敬語の難しさ」としてまとめた。「敬語の授業が難しかった」、「授業が役に立った」、「形式中心の授業であった」、「授業であまり時間がなかった」、「実生活に使える」という5つのグループは授業に対する意見という点で概念を共有するため、「授業の内容と問題点」とまとめた。

「例文が多くあればいい」と「実生活に近い教材がほしい」は敬語教育に関する意見で敬語の教育に必要な部分という概念を共有しているため、「敬語教育に対する要望」としてグループ化した。「映像の短所」と「あまり差がわからない」は「映像に入っている人物の声が聞こえない、映像が少し早い」など映像の短所についての意見と「比較しているが、良く分からない、2つの設定の差がわからない」などの意見から見ると、映像に関する否定的意見を共有しているため、「映像の否定的部分」とまとめた。「映像の長所」、「役に立つ」、「効果があつて理解しやすい」、「内容を理解した」、「映像の見せる前に説明がある」この5つの場面は映像に関する肯定的意見というところで、「映像の肯定的部分」というグループに入れた。

「初級レベルでは理解できない」と「学習者のニーズによる」は「学習者のレベルが低いと敬語を接することがない、初級学習者には理解できないかもしれない」意見や「試験対策で勉強する人には役に立たない、敬語の使用に対して不便を感じない人には要らないと思う」意見から見ると、対象という概念を共有していることが推測されるため、「教材の対象」というグループに入れた。

最後に、第三段階の作業として「敬語の難しさ」と「授業の内容と問題点」は学習者が敬語を難しく思う理由という概念を共有していることから、「学習者が敬語を難しく思う理由」というグループにまとめた。「敬語教育に対する要望」「映像の否定的部分」「映像の肯定的部分」「教材の対象」との間には、映像に関する意見という概念を共有しているため、「映像教材」というグループに入れた。そして、「留学」というグループは、日本語における敬語の経験や敬語の必要性を前提しており、他のグループと概念を共有していないことから、第二段階の分類のままで独立したグループとした。

以下の分類によって、「学習者が敬語を難しく思う理由」、「映像教材」、「留学」という3つのグループにまとめた。

3.2 結果と考察

今回のインタビューからは、「学習者が敬語を難しく思う理由」、「映像教材」、「留学」という大きく3つのグループに分類された。日本人韓国語学習者は韓国にいるときは、敬語に触れることは殆どない。日本語の専攻していることや日本に興味があることから留学が始まり、日本に来てから敬語に触れることが多い。しかし、日本語を使う機会がないことや使う場面に会うことがなくなったため、「敬語を使うのに自信がない、正しく使っているか確信がないため回避」という傾向が見られた。

そして、その敬語が難しく思う理由として経験的な問題もあるが、それより敬語を習う時の問題が大きく感じられた。熊井(1986)、川口(1985)、坂本(2001)より、指摘されている従来の日本語教科書では、形式を練習することが中心になっていることや敬語の難しさを考慮せずに、初級段階後半に集中的に教育を行っていると述べている。韓国でも同じように教育が行っていることが分かった。それ以外に、「敬語は授業の中であまり重視されてない」、「敬語を習う時になれば前の段階で時間使い過ぎているため時間がない」という意見もあった。

このような問題を少しでも改善するため、映像を利用して敬語教育する方法について考えた。インタビューの結果は以下である。

- ・敬語を教えるレベルとしては初級の学習者より、中級以上の学習者に役にたつ。そして、敬語の勉強を必要とするあるいは勉強したいと思う学習者に効果がある。
- ・文字ばかりの本より、画面を見るため学習者の興味を引き起こすことができる。しかし、映像を見せる前に画面の説明がいる。
- ・学習者が映像の理解ができないと意味がないため、最初から何を学習者に伝えるかをはっきり決める。
- ・効果を使うのはいいが、その効果を学習者立場から考える必要がある。もう少し工夫が必要である。
- ・比較する場面の場合は連続に見せるより、まず1つの場面を見せてそれについて話す。そして、残りの場面を見せて話すという形で学習者に考える時間を与える。
- ・まだ教材として完全ではないため、色々な場面を増やす必要がある。場面を増やすことで日本語の敬語を理解することや韓国語との差について分かりやすくなる。

以上のようなことから、学習者に現実に近い場面を提供することと間接的な経験を与えることを考えた教材を作れば、学習者の敬語に関する意識、つまり自信がないことや難しいことなどの認識を変えることができると考えられる。韓国人日本語学習者が敬語場面に困らないように支援する教材作成の可能性をみることができた。

4. まとめ

インタビューの分析を通じて、「学習者が敬語を難しく思う理由」、「映像教材」、「留学」という大きく3つのグループに分けることができた。各項目について色々な意見を聞くことができた。敬語に関して韓国人日本語学習者がどのように思っているか、試作映像に関する意見をたくさんもらうことができた。場面の例を増やすこと・映像と提示する前の説明・人物の多様化など色々な問題点もある。それを改善していくことで学習者が実際利用できる敬語の教材を作りたい。

今後の課題としては、映像教材が実際授業の中でどのように活用できるか、そして授業だけではなく個人的に利用するということも検討する。

参考文献

- ・坂本恵 (2001) 「日本語教育の中での敬語表現の扱い方」 東京外国語大学『留学生日本語教育センター論集』 28 : 61~67. 2002
- ・熊井浩子 (1986) 「日本語初級教科書における敬語的要素の分析と敬語分類に関する一考察」
- ・川口義一 (1985) 「日本語初級教科書における敬語の扱われかた」 国語学と研究と資料の会
- ・藤美帆 (2010) 「多文化クラスにおける日本事情の考察—受講一年後の受講生を対象とした質的分析—」 九州大学 修士論文
- ・伊藤 勇 (2009) 「質的インタビュー調査の再概念化」 福井大学教育地域科学部紀要. 第 III 部, 社会科学 64, 1-31
- ・권진경 (2004) 「어학연수가영어학습자에게미치는영향 (語学研修が英語学習者に与える影響)」 계명대학교 (啓明大学) 석사논문 (修士論文)